



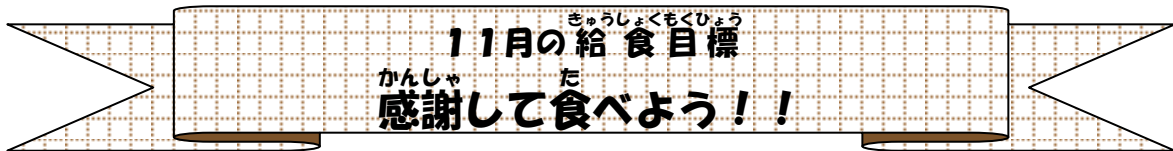
給食だより

平成 28 年 11 月

宝立小中学校

1～6年生用

2学期ももう半分がおわりました。このごろは“前より食べられるようになったなあ”“おのこしバケツがからっぽでうれしいな”と思う日がふえてきました！「今日の給食、おいしかった」といってもらえると、うれしいです。今月は、そんなおいしいごはんができるまでのお話です。



毎日の食事をいただけることに感謝を

食事は、『食べられるのがあたりまえ』ではありません。たくさんの人やいのちのおかげで、わたしたちは食事を食べることができています。

食べられることに“感謝・ありがとう”のきもちをもって、残さずに、大切にいただきましょう。



～みんなの食事をささえてくれているひとたち～

- ◎食べ物を育てたりとったりする人（農家・漁師さんなど）
- ◎お店に運んでくれる人
- ◎食べ物をうってくれるお店（スーパーなど）の人
- ◎調理してくれる人（おうちの人・調理員さんなど）

人・いのちへの感謝のことは

いただきます と ごちそうさま は日本人の心



いただきます！

ごちそうさま！

食事のあいさつには、それぞれ意味があります。わたしたちは生き物の命をいただいて生かされています。そのため、ほかの生き物の命に感謝の気持ちを込めて「いただきます」とあいさつをします。また、「ごちそうさま」の「ちそう（馳走）」とは、食材を育てたり、調理したり、駆け回っていただきありがとうございますという意味が込められています。日本の食事のあいさつを誇りに思い、心を込めてあいさつをしましょう。

★★★ ごはんのときには、おうちでも、学校でも、お店でも、どこでも心をこめて言いましょう★★★



給食だより

平成 28 年 11 月

宝立小中学校

7～9年生用

2 学期ももう半分が終わりました。「今日の給食、おいしかったです。ごちそうさまでした」と声をかけてくれる人がいます。おいしかったと言われたり、食缶がからっぽだと、“給食を味わって食べてくれたんだな”とうれしくなります。

今月は、そんなごはんと食べ物についての話題です。



毎回、ご飯を食べるときに食べられることに感謝している・・・という人はいますか？日本にいますか？「ごはんが食べられなかったらどうしよう？」なんて心配をすることは少ないのではないのでしょうか？

食べることが当たり前になっていて、意識することがあまりないけれども、本当は『食べられるのが当たり前』ではありません。今月は、食べること、食べられることについて考えてみましょう。

数字で見る「食」

クイズ

「食」に関する数字です。
何の数字か、わかりますか？
(◎はヒントです。答えは 11 月にランチルームで)

1

世界で「8 億 7 0 0 0 万人」

◎世界人口の 8 人に 1 人の割合にあたります。年々減少していますが、アジアでは、この状態の人の割合が高いです。

日本では年間「約 5 0 0 ～ 8 0 0 万トン」

2

◎捨てずにすんだのに、捨てられたと予想される〇〇の量。
これは、世界全体で援助している〇〇の量の約 2 倍、日本のコメ生産量とほぼ同じ。
先進国（日本もふくむ）では、消費（食べる）段階で、多くがムダにされています。

3

家庭から出るゴミの「4 分の 1」

◎日本で出る食品のゴミのうち、60%は家庭から出ています。
その内訳は、調理で出た皮や殻などが 55%。その約半分の量に当たる量がある状態で捨てられています。
これは、わたしたちが気をつければ減らせる「もったいない」ですね。

thank you



改めてみると、『食事ができていることのありがたみ』を感じますね。
これからも感謝を忘れず、食事を残さずに大切にいただきましょう。残さないことのほかにも、できることがあります。簡単なことから取り組んでいきましょう。